

分布：北海道を除く全国

## アゼトウガラシ（ゴマノハグサ科）

ヴァンデルリア ミクランタ  
学名：Vandellia micrantha

畦唐辛子 別名：とくになし

### 主な生育場所

水田や畦畔、やや湿った畑などに生える。河川敷や湿地環境などにも見られるが、耕地周辺でよく見かける。明るい湿地を好み、背の高い草に被陰されるとなくなる。また、少々の冠水にも耐える。

### 特徴

高さ10～20cmほどの小型の一年草。茎は四角形で無毛。株元でよく分枝し、直立または斜上する。縁には2～4個の低い鋸歯がある葉は対生、狭卵形。上部の葉脇から5～20mmの花柄を伸ばしに約1cmほどの淡紅紫色の唇形花を単生する。萼は深く5裂し萼片の先は尖る。果実は線状狭卵形で熟すと萼より3～4倍の長さとなる。



名前の由来：水田の畔など湿っぽい環境下でよく見られ、果実の形がトウガラシの果実に似ていることから、畦唐辛子。

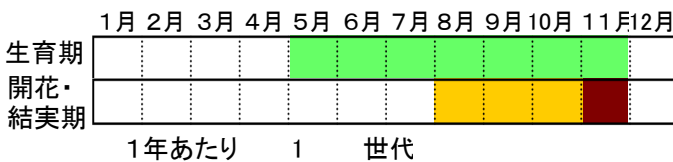
### <農業との関係>

かつて水田でよく見られた雑草だが、暗きよ等が整備され乾田化が進んだ水田では見かけることが少なくなった。小型の雑草であり、田植え直後からではなく、やや遅れて発生し、中干し期以降に目立ってくるので、イネと競合しにくく害草となりにくい。しかし、アゼナ類と混生して大群落を形成すると、収穫時にコンバインを滑らしたりイネに絡んだりして、作業効率を下げることがある。



花は白に近い淡い紅紫色で花柄の先に単生する

### <生活史> 関東地方の例(目安)



<類似種> エダウチスズメトウガラシやヒロハスズメトウガラシの葉の幅はアゼトウガラシよりも広く、鋸歯も多く鋭い。アメリカアゼナ(18年7月号で紹介)やタケトアゼナの葉脈は3～5本の平行脈となる(アゼトウガラシの葉脈は中央脈が目立つ)。

### <一言うんち>

水田周辺でよく見られるアゼトウガラシは、稲栽培に伴って古い時代に日本に渡ってきた史前帰化植物とされています。乾田化の進行やアゼナ類によく効く除草剤の登場等により、近年、各地で減少傾向がみられ、長野県では絶滅危惧種にも指定されるほど見かけなくなっているようです。



若い果実。萼よりも長く伸びる熟すと萼長の3～4倍となる

### <人との関わり合い>

稲作とともに渡ってきた古くから馴染みのある植物だが、アゼナ類などよく似た仲間と同様に小型かつ地味でさほど邪魔にならなかったことから、これまで積極的に利用したり、注目されてきたことはなかった。しかし、その特徴的な果実の形から「アゼトウガラシ」と呼称し、よく似た仲間と区別してきたことなどからは、田の畦に見られる小さな草花に対しても、農家の方々は目をとめ、よく観察してきたことがうかがわれるだろう。なお、「トウガラシ」と名につくが、毒は無いが果実も含め食用には適さない。

### <俳句や短歌への登場>

【季語：不明】

アゼナ類など水田やその周辺でよく見かける他の良く似た仲間も含めて、これまで詩歌などに登場したことはないようである。目立たない植物であるが、淡紅紫色の小さな唇形花やトウガラシに似て長く伸びる果実など、よく見るとそれなりに趣があるので、もっと目をとめてもらいたい「推し」の草花の一つである。